

平成 26 年 10 月 31 日

◎土森委員長 ただいまから、決算特別委員会を開会いたします。 (9時59分開会)

◎土森委員長 御報告いたします。

池脇委員から、所用のため本日の委員会を欠席したい旨の届け出がっております。

本日の委員会は、10月29日に引き続き、平成25年度一般会計及び特別会計の決算審査についてであります。

お諮りいたします。

日程については、お手元にお配りしてある日程案によりたいと思いますが、御異議ありませんか。

(異義なし)

◎土森委員長 御異議ないものと認めます。

《観光振興部》

◎土森委員長 それでは、観光振興部について行いますが、久保部長におかれましては、県庁勤務36年7カ月ということで、長きにわたって県庁職員として勤務され、いよいよ本日が委員会での最後の説明であります。感慨深いものがあると思いますが、心を込めて総括説明をよろしく願いいたします。

なお、部長に対する質疑は、各課長に対する質疑とあわせて行いたいと思いますので、御了承願います。

(総括説明)

◎土森委員長 続いて、所管課の説明を求めます。

〈観光政策課〉

◎土森委員長 最初に、観光政策課について行います。

(執行部の説明)

◎土森委員長 質疑を行います。

◎塚地委員 重点分野の雇用創出で行った観光客の動向調査ですけれども、1,200万円余りを使って調査された結果、その調査の特徴と今の施策に活かされているものがどんなものなのかということをお教えいただけますか。

◎岡林観光政策課長 どこから高知県に来ていただいたかといった調査項目もあり、関東とか関西が最近ちょっと伸びていますけれども、こういったところにターゲットを絞って、今後のPR・セールスを重点的に行っていくか、そういったものの力を入れていく地域の資料になっています。

それと、例えば高知県に来ていただいた方が、こういった観光地をめぐっているか、桂浜に行った人が次にどこに集まっているかということで、県内のパンフレットを今後どこに置けば効果的にもっと知っていただくことができるかなどに活かさせていただいており

ます。

◎塚地委員 やはりターゲットを決めた集中的な取り組みは効果があるのだらうと思います。その点で、例えばテレビコマーシャルみたいなものも、そこの地域で行うというような幅広い形で知らせるということが大事なのではないかなと思いますので、ぜひまたそういうあたりも力を入れて取り組んでいただけたらと思います。

◎横山委員 海外情報発信委託料についてお尋ねしますが、国際観光ということで日本への外国人観光客が1,000万人を超え、国は将来的には2,000万人を計画しているわけですが、高知県も外国人観光客にたくさん来てもらうような取り組みをこれからも続けていかななくてはならないと思いますが、平成25年度の海外情報発信について、平成24年度と比べてどういう成果があったのか、そこらあたりはどのように捉えていますか。

◎山崎企画監（国際観光担当） 平成24年度と平成25年度を比較しますと、情報サイト自体は台湾の方が大きく、1日平均のサイト訪問者数なども伸びております。サイトだけではなく、知事をトップにしたセールス活動とか、さまざまな形で台湾を中心に外国人誘客に向けた取り組みを進めており、ことし上半期の実績を申しますと、国全体の伸び率が約33%に対して、高知県の伸び率が38%ということで、高知県はまだまだこれからというところですけども、外国人観光客の伸び率が非常に高くなってきております。

今後も引き続き、さらに情報発信を強化するなど、外国人観光客の誘客に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

◎横山委員 これからの取り組みというのはわかりました。それで、こういう事業を行って、前年度との比較ができる数字はありますか。

◎岡林観光政策課長 観光庁が宿泊統計をとっており、従業員が10人以上の宿泊施設のみになりますけれども、その統計では高知県の平成24年度が1万8,690人泊、平成25年度が2万830人泊という結果になっております。

◎横山委員 台湾とか韓国は、日本にとって一番主要な海外旅行者が来てくれる国かなと思いますが、中国との関係はそこらあたりどうなっていますか。

◎山崎企画監（国際観光担当） 中国との関係ですけども、やはり一時期、高知県への観光客自体も少し落ち込みを見せておりましたが、今年度になり少しずつ回復傾向となっております。

◎横山委員 台湾、韓国、中国という東南アジアの国が来てくれるというのは、大事なことです。ですのでよろしくお願ひしたいと思ひます。外国人観光客にとって、四国といへば松山の道後というようになろうかと思ひますが、四国全体に観光客に来ていただくような取り組みも、今までもやっておりますが、これからは必要になってくるのではないかと思ひます。それで、4県の知事会等でいろいろ取り組みもされていますが、これから四国の4県が連携しての外国人観光客誘致に関する取り組みについて、部長にお聞きしたいです。

部長、本当に長い間、御苦労様でした。土佐清水市も大変お世話になり、大変喜んでおります。高知県観光にとってほんとに飛躍の年であったと思います。御苦労様でした。

◎久保観光振興部長 やはり四国で4県一体となって取り組まなければ、インバウンドはいけないと思います。ただ、一方で、4県で一緒になってやっていきながらも、単独で高知県でもやっていく必要があると思います。目立たなければならないと思います。

例えば台湾ですと、基本的に高松インアウトの中華航空というのが現在週4便ありますけども、基本的に台湾の方は旅行したときに大体4泊です。その4泊のうち2泊は高知で泊まっています。後の1泊は高松インアウトですので、インセンティブなんかは香川県が出していますので高松で1泊、それから先ほど話がありました道後で1泊と。高知県では、幡多で1泊、高知市内で1泊です。これは県土が広いということもありますけども、平成21年くらいから台湾に対して集中的に尾崎知事を先頭にずっとネットでのプロモーションなどもした結果が、ここへ来てやっと実を結んできたかなと感じます。今まで行ってなかった高知県に行ってみたいという方が多くなった結果、4泊中2泊を高知県に来ていただいている割合がすごく高くなっています。

ですから、四国ツーリズム創造機構で4県一体となってやっていると同時に、並行して高知県ならではのプロモーションもしていかなければならないし、目立たなければならないとは思っています。

◎加藤副委員長 観光情報交換会の実施委託料について、先ほどの説明では宣伝効果が26億円ぐらいあったということですが、もうちょっと詳しく御説明いただけますか。

◎岡林観光政策課長 東京で高知県の観光情報とかトピックス等をマスコミの方々に提供し、コマーシャルとかの高い費用がかかる媒体ではなく、こちらが情報発信することによってニュースとか雑誌とかネットでの情報発信の材料を提供するといったもので、その結果、高知県に取材に来ていただいた、記事にいただいた、ニュースで流していただいた、そういったものが先ほどの広告換算料につながったものです。

具体的には、テレビですとNHKのあさイチという番組であったり、日本テレビの火曜サプライズ、TBSのひるおび、フジテレビのめざましテレビとかでいろいろと取り上げていただいて、そうした結果につながったものです。

◎加藤副委員長 委託料500万円余りですよ。それで宣伝効果が26億円となると、大体500倍ぐらいの効果ですよ。

費用対効果で見ると、これはとんでもない成果が出ていると思いますけど、500倍もの価値を生み出すのであれば、例えば、もっとその予算をふやすとか、もっと大々的に取り組んで、単純計算ではいけないでしょうけど、例えば1,000万円かければ50億円とかという価値を生み出すのであれば、もっとやってもいいと思いますし、逆にその数字の根拠が本当に500倍も出ているのかなというのも一方で思います、そのあたりはどのように考え

ていますか。

◎岡林観光政策課長 広告換算につきましては、例えば通常その番組のその時間帯のCMを打った場合、幾らになるのかっていうのがもとになっており、それを番組で取り上げていただいた時間をCMでやった場合に、この時間単位であればという広告換算費の計算になっております。高知県の情報のこちらが出したいものだけが実際には流れているわけでもないですけども、その時間帯で広告換算費を計算するようになっておりますので、専門のところに広告換算費を出していただいた結果がこの数字になっております。

◎金子委員 スポーツツーリズムの推進について、観光コンベンション協会への約1億円近いスポーツ誘致事業があるわけですけども、増加傾向を踏まえてスポーツ誘致の動向を教えていただければと思います。

◎岡林観光政策課長 最近、特にアマスポーツの大会なんかが高知県に目を向けてくれており開催が伸びております。プロの場合は、施設が一定以上の水準のものでないとなかなか来ていただけないという部分がありますけれども、アマの場合は県内各地にいろいろな施設がありますので、県内各地への波及効果をねらって、競技関係者の情報などをもとに関西を中心に売り込んでいっております。

そういう風が高知県が力を入れているということで、合宿地には高知県がいいよという情報が広まってきており、最近、増加傾向にあります。

また、スポーツの種類も広がってきております。

◎金子委員 確かにプロは施設整備が基本になりますので、高知県のレベルでというのは困難性があるかと思えますけれども、アマの分野は、関西方面あるいは九州方面もたくさん需要があるわけです。

例えば、土佐西南大規模公園の場合、テニスとかサッカーとか非常に利用がふえてきており、利用者の監督の声を聞かせていただくと、これに冬芝があったらなということでした。

高知市周辺は春野総合運動公園が非常に整備されておりますけども、西南部で見たらまだまだ整備が十分でないために、スポーツ合宿が図れないという部分もあると思います。本当に九州なんかは高校生を中心に福岡方面からも需要がいっぱいあるわけです。そういうことで、整備も公園下水道課とセットになって、さらにアマの人たちがより多く合宿に来られるような取り組みをぜひ進めていただきたいと思います。

◎土森委員長 外国人観光客の話がありましたが、高知県も随分、外国人の観光客がふえてきたと思います。その中で日本を取り巻く外国人の視点がちょっと変わってきていると思います。例えば、日本の食文化、生活文化、古い民家、そういう今まで注目されていなかったところに、物すごく注目しています。

それを何で知って日本に来るかという、ほとんどネットで知っています。そういうことで、平成 25 年度の取り組みとして、外国人観光客に向けてのそういう施策的な取り組みを何かやっていますか。

◎山崎企画監（国際観光担当） 現在、サイトにつきましては、台湾のウェブサイトだけですけれども、来年度に向けて、それをさらにもう少し多言語化し、英語圏、韓国、中国、それと世界各国にウェブで情報発信するような仕組みも現在検討を進めておりますが、各国の情報収集源を国別に調査しますと、やはりどこの国でもナンバーワンになっているのがウェブサイトです。これから団体客だけではなくて、個人客、フィット客が増加する中では、ますますウェブサイトによる情報発信が必要になってくると考えておりますので、次年度に向けて、さらにウェブサイトによる情報発信を強化していきたいとただ今検討を進めております。

◎土森委員長 中国、台湾、韓国、そういう国だけでなく、ヨーロッパ関係がもの凄く多くなっています。それを考えると、高知県はものすごい資源があると思います。そういうところを掘り起こして、ウェブサイトに流していくということも非常に有効な手段ではないかと思っておりますので、なお、力を入れていただきたいと思っております。

それでは、質疑を終わります。

以上で観光政策課を終わります。

〈地域観光課〉

◎土森委員長 次に、地域観光課について行います。

（執行部の説明）

◎土森委員長 質疑を行います。

◎横山委員 観光人材育成事業について、プロポーザルで委託しているわけですが、何社が応募して、それでリクルートに決定した根拠はどういうものですか。

◎岡田地域観光課長 応募があったのはリクルートと J T B です。

内容としては、やはりその地域の人材みずからが発案する取り組みを仕掛けていくような、みずから考えていく力を養成するセミナーということで、非常にリクルートのノウハウが生かされるということで、そちらのほうに決定させていただきました。

◎横山委員 リクルートから提案があったように、やはり地域の観光資源というのは、地域の皆さんが十分理解しているわけです。特に外国人等について、先ほど委員長から話がありましたように、日本の昔からの自然や景観、また自然ばかりではなしに生活についてもということで、非常に旅行目的が広がっているという報道もあるわけですが、そういう中でやはり地域での人材育成というのは非常に大切なことだと思いますが、平成 25 年度に西部・東部・中央の 3 ブロックで研修をして、最終的には提案していただくという取り組みもされたと思いますが、その提案の中で、非常に素晴らしいということで、平成 26 年度

に生かそうというようになった提案の件数及び内容等について説明していただきたいです。

◎岡田地域観光課長 中央部におきまして、それぞれモニターツアーをやっていききたいという発表があったことから、平成25年度の年度末にはなりましたけれども、県外のお客様をお招きするというので、阪神地区を中心にモニターツアーを実施しております。それは、嶺北地域と高知市周辺へのモニターツアーということで2件催行しまして、それぞれの定員が16名ですけれども、一方は16名満員になっており、もう一方は8名でしたけれども、そういった形で県外のお客様に実際に足を運んでいただき、モニターツアーが実施できたということになっております。

その結果、嶺北地域へは、フジトラベルの日帰りツアーにはなりますけれども、平成26年度にもつながっていったという成果が出ております。

◎横山委員 人材育成は当然のことながら、非常に大切なことだという話をさせていただいたところですが、やはり観光人材の育成とかは重要なことですので、今後も取り組みを進めていかなければならないと思いますが、平成26年以降はどんな形で取り組まれていますか。

◎岡田地域観光課長 今年度に観光ブランド化支援事業というものを新たに設置し、とさ旅セミナーなんかの受講者に参加していただく形で、それぞれのエリアごとの観光資源の発掘と磨き上げや、現場サイドで旅行エージェントの方々に入っていただき、アドバイスをいただくといったものが旅行商品につながるような取り組みを進めております。

◎金子委員 とさ旅セミナーの延べ数は中央・西部・東部で189名ということですが、実数としてはどれくらいの方が参加されていますか。

◎岡田地域観光課長 実数では39名となっております。

◎金子委員 地域が主体的に観光振興に取り組む基盤強化を図ることができた。まさに今からだと思います。「楽しまん！はた博」にしてもそうですけれども、これをどういうふうに基盤強化からさらに前向いて行くかという取り組みが非常に重要だと思います。私なんかは全ての詳しい部分までわかってないですけれども、まだもう少しやらないといけないのではないかとこの部分が見えるわけです。例えば、いろんな委託もしておりますが、そういうところも、県の職員が出張して、職場に直接出向いて、セミナーの成果がどのように出ているのか、それから、中央は人が多くてにぎわうわけですが、東部や西部はどうなのかというチェックをかけながら、さらに職員一人一人の本気度を出してもらわないとなかなか難しい問題です。人相手で行き詰って、基盤強化をさらに発展させていきたいと思いますが、その辺について課長の所見をお願いします。

◎岡田地域観光課長 「楽しまん！はた博」の開催を通じて、地域の連携が今生まれていると聞いております。私どもの課では、県下7ブロックそれぞれに担当者を置き、職員が現場に足を運ばせていただき、地域本部との連携等もありますけれども、先ほど申し上げ

げました観光ブランド化支援事業など、エージェン트가現場に入っていていただくといった取り組みに当課の職員も入りながら、地域の基盤づくりに努めているところです。

東部につきましては、今イベントが始まっております。「まるごと高知、東部博」の実施もありますので、そういったものが単発で終わらずに、「楽しまん！はた博」のように、その地域のつながりにつながっていくような取り組みを進めていきたいと考えております。

◎金子委員 とさ旅セミナーの実数 39 名が県下的に多いか少ないかは判断できませんけれども、要は一人一人担当する職員が意識を完全にかえていかないと、外部から来た人へのおもてなし、あったか高知よかったねという取り組みができないと思います。そこまで努力していただきたいと思います。さらに地域観光課のほうもそういう目線で現地を見ていただき、高知へ来てよかった、また来たいねというリピーターをどうふやすかということが一番重要だろうと思いますので、そういう取り組みをぜひ進めていただきたいということを要望しておきます。

◎塚地委員 観光拠点等整備事業費補助金ですけど、例えば東部だと森林鉄道とか、この間残念ながら解体されることになった紡績工場の跡地とか、残してほしい本物の遺産みたいなものが、予算の都合などもあって壊されていくという忍びないことが多々あるかと思えますけど、そのあたりのことは、例えばこの事業費でもう少し上積みをして地域要件に伝えていくことが、本物の魅力に磨きをかけるということで大事だと思いますけど、そのところはどうか。

◎岡田地域観光課長 東部の紡績工場につきましては、民間所有ということもありますけれども、実は今年度のこの補助事業におきまして、今までの文化遺産に指定されている機械なんかも展示施設として整備する形で、今取り組みをさせていただいております。そういった形でそれぞれの地域の文化とか歴史とかといったものを観光客の皆さんに見ていただけるような取り組みにつなげていきたいと考えております。

◎塚地委員 建物の所有者と管理が別というようなことがあって、そこがなかなか難しいですけど、建物文化というのは観光客にとってはその地域の風土を感じる大事なところなので、難しいかもしれませんが一定力点を置いて、建造物を残すということにぜひこれからも積極的に取り組んでいただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

◎明神委員 広域観光の推進の中で、広域観光の組織を強化し、またこの多様な連携を深めることで本県の誘客または周遊を促進するという事業を 6 件、970 万円強やっていますけど、この中で代表的な成果、また広域観光の組織ができたというものがあれば教えてほしいです。

◎岡田地域観光課長 この 6 件の中では、例えば仁淀川エリアでは仁淀川ブルーを売りにし、先ほどのフジトラベルという話を申し上げましたけれども、500 名程度だったお客様

が今は3,000名程度ということで、ツアーの造成にもつながっておりますし、高幡地域におきましては、平成28年度の博覧会に向けて、組織づくりもできておりますので、そういったものにつながっていくと考えております。

◎土森委員長 昨年度の決算特別委員会の意見に対する措置の中で、足摺海洋館については、当然いいものができてくると思いますが、私が南海地震特別委員会の委員長をやって1番心配になったのは、津波対策は十分かということです。あそこは確か15メートル以上だったと思いますが、これへの対策は今回の設計の中でどういう処置をせられていたのかお聞きしておきたいと思えます。

◎岡田地域観光課長 あの地域は15メートル60だったと思えますが、津波高が予想されております。今の建物ではその津波に対して非常に厳しい状況になりますので、この基本計画の中で、あり方検討会からはベースは現在地が望ましいと出ておりますけれども、そのリスク対策も含めて、立地場所も複数の案をいただきながら判断していきたいと考えております。

◎土森委員長 最初の説明では、現地が最も適当であるという報告がありましたので、ちょっと心配になりました。津波は観光客に対してだけでなく脅威ですから、そのことをしっかり念頭に置いた上で、いいものをつくっていくということをぜひお考えになっていただきたいと思えます。

以上で、質疑を終わります。

以上で、地域観光課を終わります。

〈おもてなし課〉

◎土森委員長 次に、おもてなし課について行います。

(執行部説明)

◎土森委員長 質疑を行います。

◎田村委員 観光案内版等整備事業費補助金について、四国のみちはこの整備ではないと思えますけれども、市町村においては、四国のみちをつけたものの寂れているようですが、観光案内版等をいろいろつくっていく中で、地域の人は非常に四国のみちを大事にしています。観光に来てくれればそこを大事にしたい、宣伝したいということがありますので、所管は違いますが、この観光案内版等整備事業の中でも提携して充実していくようにしたいと思えますが、そこらあたりどうですか。

◎永野おもてなし課長 現在、私どもがそこまでは把握しておりませんので、今後市町村から要望を聞くときは、そういった委員の御指摘も踏まえ、十分に連絡調整をして、整備していきたいと考えております。

◎田村委員 八十八カ所やいろいろな地域での広域観光を含めて、地域で眠っている部分が非常にあるので、それをぜひとも生かしてやっていただきたいと思えますが、どうです

か。

◎永野おもてなし課長 ことしは開創 1200 年という年でもあり、お遍路道やお遍路さんの案内標識につきましては、四国のみちの案内標識と一部重複するところもありますので、そこら辺も市町村の方の意見とか、あと 16 カ所の方の意見も聞きながら、歩き遍路の方の案内標識を今整備しているところですので、そういったところで整備を図っていききたいと考えています。

◎田村委員 そうすれば地域が生きてくると思いますので、よろしくをお願いします。

それから、観光パンフレットの多言語化については、委員長も触れていましたけど、主なところが中国とかになっていますけれども、たまたま自分のところもデンマークと交流がありますが、多言語化の範囲は、その他の国の分についても、少し配慮してもらえないのかなと思いますが、どうですか。

◎永野おもてなし課長 観光パンフレットにつきましては、今基本的に英語、日本語、中国語と台湾語、韓国語でやっておりますが、御要望がありましたら、できるだけ応援したいと考えております。

◎田村委員 要望があればということで、またよろしくをお願いします。

それともう一つは、高知にいるその他の国の活動をしている団体とか連絡先をわかるようにすれば、外国人観光客が高知県に来た時に、高知県ではどの国の人たちがどういうところでどういうことをやっているとか、ガイドだけでもいいですし、団体名とか連絡先の表示が空港とか観光案内所とかにあれば、飛び入りで旅行してくる人にも役立つと思います。観光客が多く来ているところに力を入れることは当然ですので、それはぜひやっていただきたいですが、その他の国からも非常に多いということもありますので、配慮していただきたいと思います。自分たちが旅行する場合でも、それがなくて全てを自分らでやらないといけないということがあり、学校関係と連絡をとってできましたけれども、そのときにもう少し対応していただけたらよかったなと思ったものですから、ぜひともそういった方法を検討していただきたいと思います。

◎永野おもてなし課長 おっしゃるように、多言語の取り組みがまだまだです。現在は、チャーター便の就航時とかを捉えて、高知空港で一定の歓迎行事的なものやらせていただいておりますが、そういったものを含めて、多言語の取り組みについては、団体さんの御意見、あるいは外国人の方とかの御意見も聞きながら進めてまいりたいと考えています。

◎久保観光振興部長 それに関連しまして、観光客の方のみならず、個人で観光のみならず来ていただいている方もいます。文化生活部の国際交流協会にいろいろ通訳の方の窓口なんかもあるみたいですので、そこと観光振興部と文化生活部とで連携しながら対応していきたいと思います。

◎横山委員 トイレについてお尋ねしますが、観光地のトイレはやはりその地域の顔にな

ろうかと思います。県下で累計 620 カ所という報告がありましたが、620 カ所のトイレは、清潔感があるとか美しいというような調査はどのようにされていますか。

◎永野おもてなし課長 おもてなしトイレについては、要件が六つありまして、清潔、明るい、においがいい、トイレトペーパーの予備がある、洋式トイレがある、おもてなしの心でお花とか音楽が流れているという六つの要件に照らして、申請を挙げていただき、現地に調査員が出向いて、その 6 項目を確認した上で認定しております。

◎横山委員 そういう形で公募して認定ということですので、当初はいいと思いますが、認定を受けた後もずっと同じような状況が望まれているわけですので、認定後の調査も随時やっていくことが必要ではないかと思いますが、そこらあたりの取り組みについて、平成 25 年度はどうされていましたか。

◎永野おもてなし課長 平成 25 年度は、その前年度に認定した 500 カ所につきまして、基本的に全てのトイレを調査員が再チェックしております。認定が失敗にならないように、後の維持管理についても確認させていただいております。

◎横山委員 随時確認をするということは、トイレの管理者もある程度気にしながら取り組むということになると思います。そうすれば、美しいトイレがずっと維持されるということになりますので、ぜひそこらあたりもお願いします。

それから、累計で今 620 カ所ですが、県として県下で例えば 1,000 カ所のトイレを認定するという計画はありますか。

◎永野おもてなし課長 現段階では特に目標は定めておりません。今後は一定の目標も立てながら、主な観光地にあるトイレを中心に、たくさんの方が使っていただくところについてはできるだけ認定をお願いし、トイレの美化に努めていきたいと考えています。

◎横山委員 一応公募ですので、こちらからお願いもして、申請があってそれから認定になるわけですので、そういう姿勢かなと思います。やはり大事なことは、県下の観光地のどこのトイレもきれいで、美しく、使いやすいということですので、その地域からの提案も大事なことです。やはりもうちょっと県として高知県観光を進めていくべきで、おもてなしの心でトイレがきれい、清潔ということが大事であるという思いで、これまでよりも積極的な取り組みをお願いしたいと思いますが、どうですか。

◎永野おもてなし課長 やはりトイレは旅の印象を大きく左右する項目の一つですので、トイレについては、引き続き維持管理も含めて美化を促進し、認定をふやしていきたいと考えていますし、たくさん来られるところをピックアップしながら、重点的にやりたいと考えています。

◎加藤副委員長 トイレのことをこれだけ熱心に議論している議会は、本当に高知県議会ぐらいかなと思って、そういう意味ではこの取り組みは本当に重要で、成果のある取り組みだなと思っております。

映画「県庁おもてなし課」について伺いたのですが、ロケセットも非常に好調でしたよね。この「県庁おもてなし課」の全体の成果はどういうふうに分析されていますか。

◎永野おもてなし課長 私どもがよく言われるのは、高知県がこういったおもてなし活動を熱心に行っている、あるいは来てみて本当におもてなし活動をしている方が多いという声を聞きます。また、この映画を通していろいろ知っていただきましたし、県庁におもてなし課があるということを知っていただいたことで広まっていった部分があるのかなと考えています。その反面、厳しい評価もいただきました。おもてなし課というのがあるから、もう少しいろんなところで頑張っておもてなしの心を広げていけという、応援的なものも一方ではありますので、そういったことで、おもてなしの取り組みが進む一つのきっかけになったのかなと考えています。

◎加藤副委員長 部長の答弁になるかもしれませんが、「県庁おもてなし課」を私も拝見させていただいて、すごくありがたいなという気持ちもあつたし、映画自体も楽しませていただきました。今後もこの「県庁おもてなし課」の効果は期待できると思いますし、例えば地上波で放映することなど、この後の「県庁おもてなし課」の可能性をどのように考えていますか。

◎永野おもてなし課長 現在、映画の再放送をBS放送では何回か放映していただきまして、今、地上放送を実は待っているところです。実はこの9月で、県庁内ロケ地ツアーというのは終わっておりますけども、今後、そういった映画の再放送があった場合、年度内にまた再開したいということもちょっと考えていたところですが、今後どういったことができるかは未定ですので少し検討したいと考えています。

◎久保観光振興部長 少し補足をさせていただきます。今回、映画が放映されて、全国の300館弱で、60万人弱の方が見ていただいています。その中で、一つは知名度が上がったこと、そして映画の中身が素晴らしいものでしたので、景色とか食とか、いろいろ高知県の素晴らしいところがたくさん出ましたので、イメージがすごくよくなったこと。そして、何よりも先ほど課長が言いましたように、おもてなし課が全国に広まった。同時に広まることによって、地元の方が自分たちは観光客の方が来たときには、きちんとおもてなしをしなければならないという、いい意味でそういう気持ちになっていただいたというのが大きかったのではないかなと思っています。

そして、次にテレビですけれども、BS放送ではもう放送されていますし、DVDも発売されております。

◎加藤副委員長 地上波のところはまだ情報が入ってきていないのですか。

◎永野おもてなし課長 まだ入ってきておりません。

◎加藤副委員長 やはりBSでも反響はあると思いますし、地上波ならなおさらもっと大きい反響も見込めますので、そこら辺も情報を入れながら、お願いできることがあればお

願いもしながら、今後の可能性をさらに発掘していただければと思います。

◎久保観光振興部長 国内のみならず台湾、韓国でも、「県庁おもてなし課」を放映、放送していただくように現在もずっと調整しているところです。

◎金子委員 四国の遍路道も、四国のみちに認定されても全く通らない道があったり、あるいは地方部ではもう既にバイパスができて、どういうルートがいいのかということ、たびたびお遍路さんに訪ねられることがあります。

遍路道わくわくマップのような非常に詳しいマップをぜひ作成していただきたいと思っています。室戸から来る国道1本のところはルートが決まっておりますけれども、例えば幡多郡へ来て、入野へ来た時に、松原を通って次どうするかというと、いろんなルートがあるわけです。それをこのルートを通ったらこうなるという、非常にわかりやすいものをぜひつくっていただきたい。あるいはその分岐点には矢印や標識をつくっていただくとか、非常に迷って地図を見ながら立ちどまっていて、地図を見せてもらってもなかなか分かりにくい地図を持ったお遍路さんが多いわけです。

高知県のおもてなしを感じ、例えば遍路道に桜並木があるとか、紅葉があるとか、部分的にそういうものを載せて楽しみながら歩けるようなマップをぜひつくっていただきたいと思いますが、どうですか。

◎永野おもてなし課長 現在も民間とか、遍路道保存協会とか、市販の地図とか、あるいは行政がつくっている地図などたくさんあります。今回、私どもが一定地図を整備しますので、こういったものができるか、ちょっと今まだイメージはわいてないですけども、できるだけそういったことができるように検討したいと考えています。

◎金子委員 もし自分が歩くとしたらという利用者の視点で、ぜひ物事を進めていただきたい。これがいいだろうというのではなく、自分がもし歩くとしたらこうだろうという意見を集めて、高知県に来てよかったなど、わくわくしながらお遍路ができるという取り組みをぜひお願いしたいと思います。

◎永野おもてなし課長 今県内の16カ所の方から情報をいただき、歩き遍路の方の標識をつくっておりますので、そういったマップ的なものもこういったものができるか、16カ所の皆様にも意見を聞きながら、整備を検討したいと考えています。

◎金子委員 検討ではなくて、ぜひ進めていただきたいと要望しておきます。

◎塚地委員 観光ボランティアガイドの皆さんが本当に活躍してくださっていて、あちこちでもの凄いい評判を聞かせていただいて、駐車場から移動するコースの話なんかも本当によかったとか、私もあちこちから伺いますけど、そこをさらに活躍していただける場の広がりももう少しあってもいいのではないかなと思います。例えば、今観光ガイドさんに乗せないで県外から来るバスも結構あるのではないかと思います。私たちが県外出張に行っても、そこではガイドさんに乗せずに走りますけど、そういうところで、お構いなし

ところは、ぜひうちのボランティアガイドさんに乗ってもらってはどうかみたいなことも含めて、もう少し活躍の場が広がる方向はないのかなと思いますけど、そのところはどうか。

◎永野おもてなし課長　　ことしで言いますと、4月20日にクルーズ船が来高したときの臨時観光案内業務とか、五台山で交通規制を行い、シャトルバスを運行したときに、何人かの方に展望台付近でガイドをしていただいたり、いろんな場面でガイド活動ということでお願いして御活躍いただいております。

そういったことで、高知県観光ガイド連絡協議会という22の団体が集まる組織で、ガイドさんの育成とか研修アップをしている場がありますので、そこでもう少し話をして、そういった場が広がるような話もしたいなと考えています。

◎久保観光振興部長　　少し補足させてもらいます。ガイドさんというのは、本当に大事だと思います。私たちがよく400万人観光を達成しましたという話をさせていただきましても、その下支えをしていただいているのはこのガイドさんたちです。間違いなくそうです。お城にも常駐していただいています。桂浜にもおります。龍馬の生まれたまち記念館にもおいでになって、正直に言いまして高知県が観光に力を入れる前から、この方たちが本当にいろんなところでボランティアガイドをやられています。

県下に今28団体ありますけども、それぞれが確かに性格なり生い立ちも違いますのでいろんなことがありますけども、我々が今思っているのは、その方たちがなるだけ継続して、クオリティーを高めてガイドできるようにするにはどうすればいいか、やはりそこは一定それなりの対価もいただき、ガイドさんとしてのプライドも持ってやっていくことでクオリティーも高まりますし、継続していくのではないかなと。

その28団体に対しても、いろいろ事あるごとにそういう話なんかも差し上げているところです。

◎塚地委員　　高知県の人々の魅力を代表してくださっているという方々だなんてつくづく思いますので、先ほど対価という話もありましたけど、一定それを皆さんに受け取っていただいても、私は余りある効果があるなと思っていますので、ぜひ後継者を育てることへも惜しみなく力を入れていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

◎土森委員長　　おもてなしの話が随分出ましたね。官民あげて、おもてなしの意識も高揚したと思います。これは映画の影響もあると思いますが、取り組みのスタート時点から努力をされたと思います。そういう中で、一つ気がつくことは、来ていただいた人に対してのおもてなしだけではなく、来ていただくための環境整備が最も大事です。ハード事業などもあるので、観光振興部だけではできない部分もありますけど、しかし、その戦略・政策をつくっていくのはやはり観光振興部だと思います。どのような状況の中で、今までどのように取り組んできたのか、少しお聞きしておきたいと思います。

◎久保観光振興部長 今、委員長おっしゃいましたように、我々観光振興部だけではできない部分があります。短い時間で早く回りたい方、ゆっくり回りたい方などいろんな旅行のタイプがありますので、特に定時制を求められるという意味では、やはり高速道路について、本当に旅行会社の方から求められます。それにつきましては、土木部とも協議をさせていただきますし、あと、直近ではことし開創 1200 年ということで県内に 16 カ寺ありますけども、そこへ国道や県道から上がっていくアクセス道が狭いとか、側溝のふたがないとか、視界が悪いとかいうことがありますので、そういうところにつきましては余りお金もかかりませんので、これも土木部にお願いし連携してやっていっているところです。

と同時に、観光振興部独自の取り組みとしては、先ほど八つの柱を御説明させていただきましたけども、それぞれにすぐできるものから少し時間がかかるものまでありますけども、そのときそのときに抜かりなく何ができるかということを中心にみんなで議論し、市町村の方と一緒にやる必要がある、先ほどの特にインバウンドなんかは四国の他の 3 県と一緒にやる必要がある、関西圏や西日本でやる必要があるということ、観光振興部は中で議論できる風通しのいい部だと思っています。

これはコンベンションともカウンターパートで、実はきょうもそうですけど、毎週金曜日の 9 時から連携の会議をやっていますけども、観光振興部とコンベンション協会が連携しながら、市町村の方、他県の方、そして民間の旅館・ホテルの方、観光地の方、県外の旅行会社の方、そういう方々といろいろ情報共有もさせていただきながらやっていく必要があります。

よく首都圏なり都会のほうにプロモーションに行きましたら、高知県だけですとよく言われていただくことがあります。それは、民間の観光関係の方と我々行政が本当に一体となって、まさに「高知家」だと思えますけども、一体となってプロモーションをしている、それがやはり旅行会社のほうとしては安心できると。民間の方だけでうちの旅館がいいですよ、ホテルがいいですよ、観光地、観光施設がいいですよっていうだけではなく、そこへ行政もコンベンションも一緒に来てやっているということ、旅行商品を造成する方なんかによく言ってもらえますけども、そういうことをもっともっと進めていって、いろんな意見もいただきながら、風通しのいい職場にし、みんなが一生懸命やって、また近いうちに龍馬伝のときの 435 万人を超したいということ、合言葉に現在進めております。

◎土森委員長 とにかく、高知県のもの、売れるものを情報発信して、それも一つおもてなしで大事ですし、入ってきてくれる環境づくりというのも大事です。

一つ例を言いますと、戦後、日本が復興した大きな立役者が高知県にはいますよね。吉田茂さんです。なぜあそこへ移設したか。この人を売ってないですよ。売ることもおもてなしになります。これは一つの例ですが、そういうものがまだたくさんあると思いますので、ぜひそういうことも取り上げていくと。あの人がいなかったら戦後復興、今の日本は

ないというふうに歴史的に言われていますので、それも含めて全体を見て、ぜひそういうおもてなしの気持ち、情報発信をして、受入態勢や環境整備をするという姿勢で今後とも頑張っていたきたいと思います。

以上で質疑を終わります。

これで、おもてなし課を終わり、観光振興部全てが終わりました。

久保部長におかれましては、冒頭で申し上げましたように36年と7カ月、県庁職員として数々の実績を上げられてこられました。いよいよ第2のステップにジャンプしていくということが報道されましたので、ぜひ健康に気をつけられて頑張ってくださいようにエールを送って、以上で観光振興部を終わります。

(11時27分終了)